3 わたしたちと動植物

越谷市の希少な動植物

越谷市には、大きな川や調節池がいくつもあります。これらの水辺では、たくさんの希少な動植物が見られます。その一部を紹介します。

元荒川沿い・しらこばと水上公園付近

フジバカマ

８月から９月にうすピンク色の花を咲かせます。土手などに咲く花ですが、数が少なくなってきています。

ナガボノシロワレモコウ

８月から９月に白い穂の形に花をつけます。しめった場所が好きで、川沿いで見られます。

ノウルシ

背の高さは30～40cmです。花の根本の葉があざやかな黄色で、遠くから見ると黄色い花が咲いているように見えます。

オオヨシキリ

スズメより大きく、全身が薄茶色をしています。ヨシのくきを使って巣をつくります。

「ギョギョシ」とさえずります。

県民健康福祉村付近

コムラサキ

オスのはねは青むらさき色に光る部分があります。幼虫はヤナギを食べて育ちます。

古利根川・大吉調節池付近

アサザ

６～８月に、水面からくきを伸ばし黄色い花を咲かせます。葉はたまごの形で浮かんでいます。

シラコバト

埼玉県の県の鳥、越谷市の市の鳥に指定されています。国の天然記念物に指定されています。

キタミソウ

年に２回、10月・３月ごろに、直径２㎜ほどの白い花を咲かせます。古利根川沿いや葛西用水、元荒川などで見られます。

クイナ

ハトより小さくて尾が短く、体の割には足の大きな鳥で姿を見つけにくい冬鳥です。

葛西用水・大相模調節池付近

ヨシゴイ

日本で見られるサギの仲間で、最も小さく、ヨシの中などに枯れ葉で巣をつくります。大吉調節池や大相模調節池で見られます。

コアジサシ

小型のアジサシで、全長28㎝ほど。水面上空を飛び回ってエサを探し、水中に飛び込んで魚を捕ります。

ミゾコウジュ

田のあぜ道など、少ししめったところに生える、高さ30～70㎝の２年草です。元荒川沿いの他、県民健康福祉村や新方川沿いにも見られます。

越谷市の各地でよく見られる動物や植物

春

春はめざめの季節です。植物が芽を出し、花を咲かせます。虫の活動は活発になり、花の蜜を吸いに来ます。野原や空き地に行って、色々な生き物に触れてみましょう。

セイヨウタンポポ

元々あったカントウタンポポ。セイヨウタンポポは外国からやってきました。

カントウタンポポ

オオイヌノフグリ

ハルジオン

モンシロチョウ

ナミテントウ

ナミテントウには、地の色や模様の数が違うものがたくさんいます。さがしてみましょう。

川沿いや学校に多いソメイヨシノの他、シダレザクラやヤマザクラなど、様々な種類があります。

ソメイヨシノ

カタバミ

アオスジアゲハ

～春の七草～

ナズナ

セリ

ハハコグサ

ハコベ

コオニタビラコ

「セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシロ」が春の七草と言われていますが、「ゴギョウ」は今のハハコグサ、「ホトケノザ」は、「コオニタビラコ」のことです。「スズナ」はカブ、「スズシロ」は大根だと言われています。

季節ごとの動植物の様子を比べながら探してみましょう。

夏

夏は太陽の季節です。植物は成長し、緑を増します。虫は色々な種類が見られるようになります。

ツユクサ

ドクダミ

クズ

この植物の根から取れるデンプンが「くず粉」といい、お菓子に使われます。

小さな赤い実がなります。毒はありませんが、食べてもおいしくありません。

ヘビイチゴ

ヘクソカズラ

シロツメクサ

イヌタデ

ツバメ

アブラゼミ

にぎやかなセミの声。ツクツクホウシやミンミンゼミなどと、鳴き声をくらべてみましょう。

～川辺では～

シオカラトンボ（オス）

（メス）

オオカマキリ（オス）

（メス）

ヨシ（アシ）

川辺にしげる背の高いヨシ。この草むらの中は、生き物のよいすみかです。トンボやバッタ、カマキリなどの昆虫、オオヨシキリなどの鳥などたくさんの生き物が集まります。

秋

秋は実りの季節です。植物は実をつけ、仲間を増やします。虫は鳴くものが多くなります。鳥は外国に帰るものや、新たにやってくるものがいます。

イチョウ

気温が下がってくると、葉や実も黄色に染まります。種子は「ギンナン」といって、食べられます。

カントウヨメナ

エノコログサ

アキアカネ

カルガモ

エンマコオロギ

秋の実、どんな実、どこにあるかな？

校庭や公園、野原や川辺にこんな実があるか探してみましょう。

ジュズダマ

クコ

ムカゴ（ヤマイモの実）

カラスウリ

ススキ

ヒガンバナ

～ドングリのなる木～

ドングリとは、ブナ科の仲間の果実を言います。公園などに様々な種類の木が植えられています。

スダジイ

クヌギ

冬

冬は眠りの季節。植物の多くは葉を落とし、冬芽をつけ春を待ちます。虫は落ち葉の下や梢で寒い冬をじっとがまんしています。冬はカモなどの冬鳥が見られます。

～冬を越すための工夫～

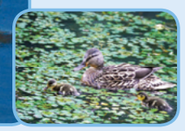
花が少ない冬。公園や道に植えられたツバキやサザンカが目を楽しませてくれます。

サザンカ

ツバキ

クリスマスローズ

マガモ



ツグミ

カマキリの卵

ヤゴ（トンボの幼虫）

さなぎのアゲハ

寒い冬を乗り切るために、色々な工夫をしています。寒さをさけて越谷市にやってくる鳥もいます。

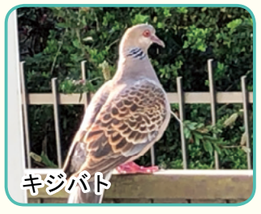
一年間見られる生き物

春　夏　秋　冬

スギ

ネズミモチ

シジュウカラ


キジバト

オナガ

越谷市と緑

今、貴重な自然が年々減っています。しかし、私たちの住んでいる越谷市では、緑を守ったり増やしたりするため、様々な努力がされています。

苗木や記念樹の配布

越谷市では、希望者に苗木を配布しています。さらに、結婚したり赤ちゃんが生まれたりしたことを記念して苗木を植えようとする人に、記念樹として無料で配布しています。公園や道路にも木を植え、緑豊かな市になるように努力しています。

屋上緑化

建物を冷やす効率を上げるために、屋上緑化に取り組んでいるところが、越谷市でも年々増えています。

ベランダにプランターを置くなど、工夫すると学校や家でもできますね。

グリーンカーテン

ヒートアイランド現象防止のため、グリーンカーテンに取り組んでいる学校があります。

教室の窓辺などでヘチマやゴーヤを育てて、日かげをつくると、体感温度がぐっと下がります。みなさんの学校や家でも取り組んでみてはどうでしょうか。

ビオトープ

越谷市の多くの小学校には、ビオトープがあります。ビオトープとは、木々を植えたり池をつくったりして、色々な自然の生き物がすめるようにした場所です。

自然の観察やふれあいの場所として役立っています。

越谷市には、全国的にも少なくなってしまったなかなか見ることのできない植物や動物があります。これから先もずっと越谷市で見ることができるように、守り育てる努力をしています。

キタミソウ

北海道の北見地方で発見された「キタミソウ」が、越谷市でも昭和25年に発見されました。発見後、たくさんの人たちの努力によって守り育てられています。

越谷市周辺では、用水の水が落ちる9～11月と3～4月に小さい花が見られます。

古利根川と元荒川でも確認されていますが、中でも葛西用水に多く自生していますので、見つけてみましょう。

コシガヤホシクサ

コシガヤホシクサは、ため池の岸辺や河原、水中に育つホシクサ科の水草の一種です。昭和13年に、市内を流れる元荒川付近で発見された新種のホシクサでしたが、現在は自生していません。市では、「コシガヤホシクサ」発祥の地・越谷での野生復帰を目指して努力しています。中央中学校、大袋東小学校で栽培が行われています。

フジバカマ

昔は土手などにさくさん咲いていましたが、河をコンクリートなどで固める工事が増えたことなどの影響で、数が少なくなり、絶滅のおそれがあると言われています。

校長先生の話

北越谷小学校では子どもたちがフジバカマを育てる活動を行っており、北越谷小学校は「フジバカマの学校」と呼ばれています。

フジバカマは秋の七草に数えられる植物です。花がうすい藤色、花の形が着物のはかまに似ていることからフジバカマと名づけられたと言われているそうです。

北越谷小学校では、ゲストティーチャーをお呼びし、子どもたちが環境に関心をもてるような学習等を進めています。

フジバカマを自然環境の中で増やしていく取り組みも進めていければと考えています。